

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／クロス

京都建築大学校 理事長 新谷秀一



【理事長プロフィール】しんにゃ ひでかず●1940年生まれ。北摂ミサワホーム株を設立し社長就任。1991年より現職。(財)京都伝統工芸産業支援センター理事長、京都伝統工芸館・大阪都島工芸美術館館長。

【学校プロフィール】1991年京都国際建築技術専門学校として開校。07年現校名に改称。建築学科高度専門課程(4年制)、建築科(4.3.2年制)の2学科体制で「就職保証」「二級建築士合格保証」制度(詳しくは学校HPに記載)などを持つ。通称はKASD。併設校に95年京都伝統工芸専門学校として開校した伝統工芸分野の人材養成機関、京都伝統工芸大学校(通称はTASK)がある。

すべての基準は「学生のため」。 世の中にもないものも、必要ならば 用意する、それだけのことです

私

は経営者として長く建設・住宅産業界に身を置いてきました。1991年に「京都建築大学校」を開校したのは、長年の恩に報いるため。また、技術者不足を感じてきただけに、優秀な人材の育成に取り組みたかったからです。京都府中部の広大な土地に、自前の学生マンションを建て、駅前を整備し、学生目線で作ったキャンパスは、今ではどの大学にも引けを取らないものとなりました。

そして、高等教育と資格取得などの実学をどう両立させていくかにも取り組みました。在学中に「二級建築士」などの資格や、大学卒業資格が取得できる体制など普通では考えられない取り組みに挑戦してきました。近年の時代状況を鑑み「就職保証」や「二級建築士合格保証」なども始めています。

こうした、周囲から驚かれる独自の取り組みはすべて、学生を第一に考えてきたからこそ実現できたと思っています。事実、こちらの意図以上に、学生は成長していきます。それは意欲あふれる学生はもちろん、入学時の成績が今一歩という子でも同様です。私自身、彼らに教えられてきました。そして、教育者の使命は、知識や技術を教えることのみならず、心に火をともしることなのだ実感しています。

また、併設校として「京都伝統工芸大学校」を95年に開校しました。通産省(当時)より伝産法に基づく「支援計画」の認定を受け、伝統工芸の後継者育成を目的とした学校です。国から何度も懇願されて開校しましたが、従来も徒弟制度にはない実習を中心とする体系的なカリキュラムや、名人と呼ばれる職人で構成される講師陣などすべてが新しいことへの挑戦でした。その成果は伝統工芸業界への高い就職率にも表れています。一般企業からも、先端技術を担うには知識、知恵だけでなく「手先の器用さ」が不可欠だと、伝統工芸を通じて養われる「技」に期待されています。

12年度、これら2つの学校設立と実績を生かし「京都美術工芸大学(仮称)」を新設する予定です。京都府が提唱する「新京都伝統工芸ビレッジ構想」の中核を担う大学として、今後行政・民間企業等の関係機関が協力と支援を行う体制の構築が進んでいます。

日本の伝統文化と技術を継承し、美術工芸産業界を担う専門職業人を育成する4年制の大学です。国際化のなかで日本が生き残るために、ものづくりの力は欠かせません。この大きな使命のもと、これまでになく、「ものづくり教育のカタチ」を確立してまいります。